

C 広葉 葉や花は総て互生する

D 広葉 生時に葉表は側脈・細脈が凹み、やや皺状

E葉裏の中脈上に白または黄褐色毛を多少残存する;黄褐色毛は、僅少-やや明らか;葉裏は後無毛 新枝ははじめ密毛あり

F葉裏(中脈除く)は初め毛やや多数散在;ひら鋸歯-ひら凸鋸歯〔シバヤナギ節キツネヤナギ亜節1〕

(SGOHKTY,主に内帯・秋田・京都・北関東・山野)(低木;葉34広)【17オオキツネヤナギ=オオネコヤナギ】

新葉は脱落生の綿毛密生 やや多毛

葉表は毛散在 ほぼ無毛、中脈は微毛密生 ほぼ無毛

葉裏は毛やや多数散在 ほぼ無毛、中脈は毛密生 多数散在、側脈・細脈上に毛散在

;毛は次第に脱落するが残る

葉表は濃緑-毛で白緑感;裏白味ある淡緑-灰青

生時葉表は中脈・側脈・細脈が凹で皺感あり(押葉で皺減ず)

;葉表中脈はやや凸だが凹に見える;葉裏は中脈・側脈・細脈が明凸、やや肋脈(注)

;側脈は間隔広くゆるく弓曲、先はゆれみだれる

ひら鋸歯-ひら凸鋸歯;時に乾くと縁は極細く裏に反る

成葉は長楕円-楕円形;巾30-60mm,120-200mm;洋紙質

中央より先が最広傾向だが正形もある

葉柄は毛密生 微毛やや多数散在 葉柄10-18mm

托葉は円頭(鈍頭)、偏(曲)卵形 鋸歯縁(縁は裏に反る)、無毛-多毛;基部の腺はなし-2~3個

新葉は少し赤味ある、側縁は軽く裏に巻く 若葉はこぼこ波打つ

新枝は密毛 若枝の所々で狐色密毛集団散在 本年枝は少毛、芽に茶褐色 無毛

小枝に隆起条密

(時に生時、葉に艶なく全体白っぽく毛が多い感じ;葉表に凹脈目立ち特徴あり)

;皺は押すと不明となる;側脈の間隔広いのは良い特徴;山口)

(H;キツネヤナギの多毛型と混同されてきたが、一般に小枝がやや太く、若枝に毛の多いこと、葉が大きく、葉裏の毛はしばしば残留し、裏面主脈上に伏長軟毛がある点で、花がなくとも区別できる)(Y;キツネヤナギと比し、最大巾位置中央に近い)

(T;内帯に分布の本拠を置くが、時に太平洋側にもある;葉はバッコヤナギに似るが、全体長く伸びた形状;冬芽は大きく黄褐色で園芸ではキンメヤナギ)

《本種の節の所属》(T;本種の節は、木村有香は隆起条がある低木としてシバヤナギ節キツネヤナギ亜節とし、大橋広好は隆起条があり子房に密毛があることからバッコヤナギ節とした<或いは生時凹脈も影響か;山口>;KTは木村に従う)(G0はシバヤナギ節におく)(Sは検索で、子房が無柄であることと葉がシバヤナギ節より大きいことをキーとして、別のオオネコヤナギ類としている)